

御前崎市では、 2カ月の間に1人が自殺で命を落としている

自殺は、誰にでも起こりうるものです。

自殺をめぐる現状

日本は、残念ながら自殺者が多い国といわれており、主要先進国の中ではワースト1位となっています。今日も、日本のさまざまな地域で多くの人が自殺で命を落としているかもしれません。

日本の自殺者数は、平成10年に初めて3万人を超え、それ以降も3万人を超え続けたことから深刻な社会問題として認識されるようになりました。現在は、2万人弱にまで減っているものの、依然として多い状況にあります。

市福祉課がまとめた市内の統計では、平成26年から平成30年までの年間自殺者数の平均は6.6人となっています。これは、2カ月の間に1人が亡くなっている計算になります。

市では、誰しもが自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、平成31年に「御前崎

市自殺対策計画」を策定し、自殺者数を減少させるべく取り組んでいます。

人を自殺に追い込むもの

自殺は、個人の意思や選択の結果と思われがちですが、決してそうではありません。実際は、下図のように、さまざまな要因が積み重なって心理的に追い込まれた末の死です。その中でもうつ病などの「こころの病気」は、ストレス社会を生きている私たちにとって誰もが発症しうる、とても身近な病気になっています。ともすると自殺してしまふ要因は誰にでもあると考えられます。身近な人の自殺を防ぐために、私たち一人一人に何ができ、どういった行動が必要なのでしょう。

次ページでは、それらのヒントを得るために「全国自死遺族総合支援センター」に所属している吉永洋子さんに話を聞いてみます。



▲自殺に至る経緯を表した図

出典：厚生労働省『自殺実態白書 2013(ライフリンク)』